

佐伯文庫公開展(下)

山 本 保

(会員・佐伯市池船町)

梅木幸吉先生提供資料(カラー写真)

国立公文書館・内閣文庫收藏

「毛利家蔵書目」乾・坤 二冊

「紅葉齋書目」 四冊

紅葉齋は、佐伯文庫創設者毛利高標の

書齋名

「毛利出雲守蔵書目」

毛利高翰は、従五位下出雲守であった

このほか、「毛利出雲守納書」「佐伯

蔵書目録」「佐伯蔵書総目」「佐伯毛利

侯蔵納書目録」などの図書目録が、内閣

文庫に保管されている。

また、「佐伯蔵書目」が宮内庁書陵部

に、「佐伯蔵書総目」が奈良県天理市天

理図書館、佐伯市立佐伯図書館に、「佐伯

侯蔵書目録」が大分県立大分図書館・佐

伯市立佐伯図書館に「佐伯文庫書目」が

佐伯市立佐伯図書館に、それぞれ備えつ

けられていることは異例なことである。

明治の教育家中村敬宇は、帝国図書館

の蔵書の中に、「佐伯文庫」の印をみて驚き、

「当時の佐伯侯の学識は如何ほどのものであったのか、

実に測り知ることができない」

と感嘆したといわれている。

なお、佐伯市臼坪岡ノ谷招魂所にある「東京警視萩原

隊戦死の碑」(西南の役・警視隊戦死者十五名)は、明

治十一年十月三日建立されたが、その碑文は、中村敬宇

(正直)の撰文である。

中村正直は帝国大学教授・貴族院議員・文学博士

「西国立志論」「西洋品行論」の著者

内閣文庫の図書が、長州藩(三十六万石)毛利家の献

上であると、テレビで放送されたが、それは豊後佐伯藩

(二万石)毛利家の佐伯文庫の一部である。

重要文化財に指定されている「盧山記」は、北宋時代

の呉知事陳舜俞が退官後、盧山の南に隠居して、実地の

見聞をもとに、文献を参考としながら、盧山遊覧の案内

や、名賢の略伝・詩文・山中の古碑などについて書いた

もので、毛利高標・毛利高誠・毛利高翰所有の旧蔵書で

あった。

「蘇氏易解」

「詩経宗義」

宮内庁書陵部・図書寮收藏

「玉燭宝典」 十二卷 江戸時代写

玉燭とは、四季の気候の調和するという意味で、一月から十二月に至る行事を、諸書から収録したもので、所謂政令行事を記した宝典である。

隋（五八一―六一七）の杜台卿撰

「前方備祖」 五十八卷 宋版

中国最古の植物事典。現在では中国にも残っていないという貴重本で、昭和五十四年九月、七百年ぶりに復刻出版された。

十三世紀末、宋の陳景沂の撰

「道蔵教」は、当時、江戸・上野の寛永寺主（徳川家菩提寺・輪王寺の宮）が清国に注文していたが、薨去した為、毛利高標は書物奉行関谷善左衛門儀を長崎に派遣し、大金を投じて購入した。

この本は四千百五帖という大冊数であった。

嘉永六年（一八五三）十二月二十七日、出雲守（佐伯

藩主十代毛利高翰）献本「道蔵教」修理宮繕の功績として、木村薫平・石井内蔵允にそれぞれ銀十枚、武嶋安右衛門に同七枚、嶋田帯刀に同五枚、また、江戸城二の丸御留守居・金井伊大夫に巻物五、御広敷番頭・水野新右衛門に銀十五枚、佐山源右衛門に同二十枚下賜された。

金井・水野・佐山の三人は、御書物奉行であり、この修繕には、かなり多くの人々を動員して、作業を押しすすめたことが推測される。

佐伯文庫の献本によって、江戸城内・紅葉山文庫の書庫の一つが増設された。

現在

内閣文庫収納（佐伯文庫）

元版 十二部 明版 六百九十七部 清版 五百四十四部

朝鮮版 四十部 和版 七十七部 その他 六部

計 千三百四十六部 一万二千二百二十二冊

宮内庁書陵部収納（佐伯文庫）

宋版 七部 元版 十二部 明版 四十四部 清版

十三部 朝鮮版 七部

計 八十四部 四千九百九十九冊

総計 千四百三十部 一万七千二百二十一冊

大分県立大分図書館資料提供

「佐伯侯献書目録」

文政十一年「佐伯文庫」二万冊を、徳川幕府に献上した時の図書目録であり、書物奉行明石大助が全精力を傾注して作成した。

「植 物 書」

元文元年（一七三六）ドイツ人ワイマンの原著を、ヨハネス・フルマヌスがオランダ語に訳し、アムステルダムで出版した。

図版の彩色が手書きである。

「海水棲息の貝類の彙集」

著者はフランス人で、第一部明和元年（一七六四）、第二部明和二年（一七六五）出版の合冊である。
長崎オランダ商館長の自筆署名入り。

「魚類の歴史」

著者はイギリスの動物学者で、貞享三年（一六八六）出版。図版は、精巧な銅版で印刷されている。

「自然学原理」―国民のための―

著者はオランダ人物理学者で、元文四年（一七三九）に出版。彼は、イギリスでニュートンと交際し、帰国

後、その学説を自国で初めて紹介した。

「新精撰外科学」

ラテン語の原著をヘンドリー・コルプが、オランダ語に訳し、宝暦十二年（一七六二）アムステルダムで出版した。

以上、これらの図書は、昭和二十四年天皇の九州御巡幸のとき、別府の宿舎で、天覧の榮に浴している。

なお、豊後の国の蘭学の発達は、佐伯文庫、特に毛利高標と非常に関係が深いといわれている。

佐伯市立佐伯図書館資料提供

経部 史部 子部 集部

「日講易経解義」 清の時代

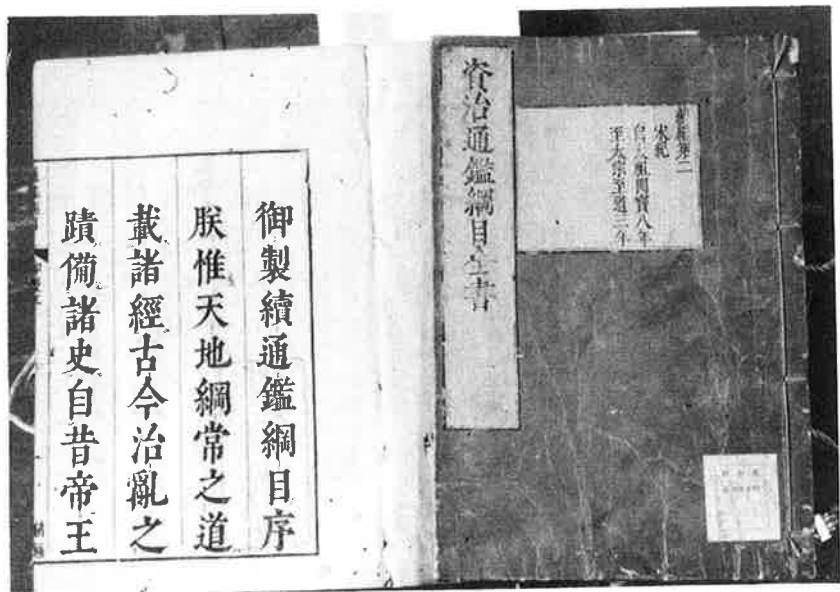
四人の聖人（釈迦・キリスト・孔子・ソクラテス）の教えを示した、所謂帝王学の書である。

「春秋直解」 明の時代

孔子が作ったといわれる「春秋」（歴史の書物）を素直に解釈している。

「孝経集解」 清の時代

孔子・曾子の論説「孝経」―親孝行の道を、趙氏の家



資 治 通 鑑

塾でみずからの意見をのべている。

「論語集解」 魏の時代

孔子と弟子などの問答を集録した「論語」に、魏の学者が注釈を加えている最古の本である。

「篆字彙」 清の時代

珍本篆字（てんじ）の辞典である。

「後漢書」 元の時代

後漢の光武帝から十三代にわたる史書である。

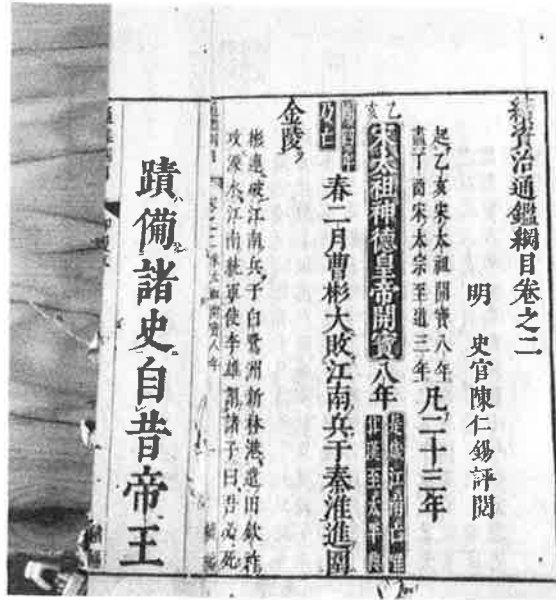
「資治通鑑」 北宋の時代（写真参照）

撰者は、北宋の学者、政治家でもあった司馬光の史書である。佐伯小学校・校長室に掲げられている「水がめをわる書画」へ第八代佐伯藩主・毛利高標（タカスエ）書、狩野派・狩野由信画✓は、藩校四教堂（シコウドウ）の目標を示したものであり、その出典は、資治通鑑によっている。

「廉吏伝」 明の時代

廉吏（レンリ）とは、心清く、欲少なき役人のことであり、また、法を奉じて職を守り、死を終わるまで、あえて非をなさずと、定義づけされている。

「文献通考」 宋の時代



上古より南梁までの諸制度を通観した書である。

「廬山紀事」

明の時代

廬山（ロザン）は、平安朝時代の女流文学者・清少納言の「枕草子」中の「香炉峰の雪は、いかならむ」という白楽天の詩を引用したくだりで知られている。

中国・江西省の景勝地である。

この土地の地理や歴史的なこと、古人の説などを取り入れた随筆であり、虫・鳥・動物・植物をはじめ、好風景にいたるまで、万般について叙述されている。

「釈迦如来成道記」

唐の時代

釈迦如来の八相成道について、簡明に叙述し、入滅後遺法と弘通に及び、最後に、末世に生まれた自分が、釈迦の説教に接しなかった悲哀をひそませている。

「泰西水法」

明の時代

農学に関する著書で、新しい「水法」すなわち水路を作って田畑に必要な水を引き、土地をうるおす方法を解説している。（以下省略）